



2010 年 3 月 8 日発行

「赤レンガをいかす会」

赤レンガ通信

NO.1

〒272-0823 千葉県市川市東菅野 5-8-21-201 (いちぶんネット内)

TEL047-339-7809 FAX047-339-7810 Eメール akarenga_2010@yahoo.co.jp

「赤レンガをいかす会」誕生！

ご挨拶

「赤レンガをいかす会」代表 吉原廣

市川市民が最も好きな景観として挙げる江戸川からの国府台台地の眺めのまさに中心、国府台2丁目にある旧千葉県血清研究所跡地には、一棟の旧陸軍の赤レンガ建造物が存在します。

この建造物は、以下の通り、極めて価値の高いことが確認されています。

1. 明治 37 年建造という県内最古の赤レンガ建造物と認められること。
2. 軍都であった市川市の唯一残る軍の歴史的建造物であること。
3. 良く設計されていて、大震災を経ながら極めて保存状態が良いこと。
4. 現状を保ちながらの復元や有効利用が十分可能であること。
5. 旧施設の他の建物も十分利用価値が高いこと。



「貴重な赤レンガ建造物を残そう！」という声が市民の間から立ち上がってきました。

現在、この建造物と敷地は千葉県が所有し閉鎖されたままです。管轄する県健康福祉政策課自体の跡地利用プランはありませんが、平成 22 年度予算で敷地内の土壌汚染調査 (9 月までに) が実施され、その後、県庁内での利用要望を受け付け、要望がなければ市川市への譲渡が検討されています。一方、市川市の方では、前市長時代に「更地にして、8 面の国際基準のテニスコートを造成する」というプランがあったようですが、現在では「全くの白紙状態」のようです。

行政側の再生プランが論議されるのはこれからでしょうが、譲渡の際は「更地にするのが原則」ということなので、今の段階で「赤レンガ建造物を保存して、市民と協働で再生利用プランを考えていきませんか？」と市民側から行政に声をかけていくことが大事になってきます。

そこで、まずは「赤レンガ建造物の存在と価値を多くに市民に知ってもらおう」と、2 月 6 日 (土) にシンポジウムを開催し (報告は後述)、その後「赤レンガをいかす会」を設立、赤レンガ建造物の有効保存に向けた市民活動を進めていくことにしました。

歴史的価値の高い赤レンガ建造物は全国各地に現存しており、建物の規模、建築様式、地域の状況によって様々に活用されています。私たちも国府台の赤レンガ建造物をただ保存するだけでなくその有効利用を、そして赤レンガだけでなく施設全体を平和と環境と文化をテーマにした市民活動の拠点として再生・活用していくプランを築き上げて、市民や行政に訴えていきたいと願っています。

今後、可能な限り皆様へ情報をお伝えするとともに活動を展開していきます。この市民活動が、市川市における平和と環境と文化活動の発展に大きく貢献することを願っています。

市民の皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

「赤レンガをいかす会」設立シンポジウム成功！



2010年2月6日(土)、会場の和洋女子大学東館16階の大教室には200名近い市民が集まって、熱気に包まれたシンポジウムとなりました。

まずは、赤レンガ建造物のある旧千葉県血清研究所で働いていた鈴木一義氏から基調報告。スライドに映し出された全景は、まさに会場の窓の下に広がっているのですが、肝心の赤レンガは他の建物群の影になって見ることはできません。写真や図面を使って、研究所の歴史とともに、赤レンガ建造物の現状が報告されました。

続いて、コーディネーター役の和洋女子大学教授・中島明子氏より、赤レンガを“平和と環境と文化の拠点”として活用し、地域のまちづくりへとつなげていきたいと提起され、シンポジウムへと進みました。

報告の1は、日本近代史研究家の高野邦夫氏による「戦前の市川は軍都だった」とする話。明治の初め、ここに大学校を建設するつもりで国家が買収した広大な土地は計画の頓挫(結局本郷に決まって東京大学となった)の後、陸軍省の管轄に変わって、この一帯は広大な練兵場となっていきます。太平洋戦争の敗戦まで、市川は軍隊とともに発展した軍都であり、数多くの兵隊たちが戦場に派遣されて死んでいった恨みの町でもあったのです。そして、その痕跡は当該赤レンガ建造物以外にほとんど残っていないことが報告されました。

報告の2は、日本大学教授の藤谷陽悦氏による「赤レンガの建築史的意義について」の話。赤レンガは幕末に日本に導入され、殖産興業によって国内生産が整えられ、明治30年以後から生産量が飛躍的に増大した。それらは主に鉄道・トンネルなどの土木工事に利用され、日本の礎が築かれていったが、一方では日清日露と続く戦争拡大政策に応じて、明治30年代は日本全国に数々の赤レンガ施設が軍部によって建設された時期とも重なる。各地の実例とともに、国府台の赤レンガ建築がその時代の遺跡として、如何に貴重な建物であるかを確認しました。

報告の3は、建築家の高木彬夫氏による「赤レンガの建物としての特徴と再生」。詳細な調査の必要性を前提としながらも、再生利用は十分可能であること、また研究所の他の建築物も近代建築として個性的な輝きを有していることも指摘され、施設全体が市民文化活動の拠点、文化を核とした国際交流の拠点となりうる可能性を指摘されました。戦争に利用された罪のない建築を平和のために役立てることが、建築に対する思い遣りではないかと述べられました。

休憩を挟んで、質疑応答と意見交換。会場からは参加された8名の市会議員の一人増田三郎氏が近親の戦争体験とともに赤レンガ保存への協力と市議会へ陳情書を出すように提言されました。

「赤レンガ再生の夢プランを描く」という課題は時間切れで尻すぼみに終わりましたが、これは今後十分に膨らませていくことにしましょう。

最後に「赤レンガをいかす会」の正式発足。設立宣言・規約・代表と運営委員が承認され、今後の活動プランを確認しました。

活動成果数値 当日参加者 198名 入会員 100名余 カンパ収入 90,000円弱

夕刻は18階レストランで30名以上の参加のもとに懇親会。富士山の頂上をかすめるように夕陽が落ちていきます。くっきりと浮き上がった成層火山の勇姿、なんとも壮観な光景が広がっていました。

(報告者:吉原廣)

赤レンガ見学会を実施します！

2010年3月27日(土) 11:00～12:30

どなたでも自由に見学できます 当面最後のチャンスです。ぜひご参加ください

事前にご一報ください(047-339-7809あるいはメール)・現地集合・参加費無料

交通案内 JR市川駅北口バスロータリー1番線より乗車(松戸・松戸車庫行) 約8分、和洋女子大学前停留所下車、和洋女子大学と国府台高校の間の路地を直進、突き当たって左へ、徒歩3分。(旧千葉県血清研究所)

2月15日、県議の岡田幸子氏のご協力で、千葉県庁各関係課と「赤レンガをいかす会」との情報交換会が開かれました。その報告です。

管轄する健康福祉政策課では当面跡地利用の計画はなく、まず2010年度予算で、旧血清研究所跡地の土壌調査が行われ、4～5月業者選定、9月まで調査という予定。汚染度の結果によってはその後詳細調査が行われるそうです。その後県庁内での利用要望を聞いて後、市川市からの譲渡要望との交渉に入ることになるそうです。また文化財課からは文化財指定に関して話があり、外形は保存して内部を有効利用する登録文化財という制度を教えてくださいました。

これに関しては文化庁への働きかけが必要になるようです。いずれにしろ、跡地利用に関する具体的な動きが見えるのは数年先になりそうです。

意見交換会の中では、むしろ現在の市民の動きを伝えることが大切と、シンポジウムの報告と赤レンガ保存活動が本格的に動き出したことを理解していただきました。

そして、熱い要望を伝えて「赤レンガ見学会」が実現しました。「もう1回だけ」という約束ですので、当面最後のチャンスです。時間内で出入り自由ですので、ぜひご参加ください。現地での説明会も行う予定です。

驚きの新発見か！

赤レンガ建造は、やはり明治10年代の建造か？

この赤レンガ建造物の建造が明治37年と推定した根拠は、以前屋根の梁に打ちつけられていた

板片に“明治37年”の文字が書かれていたことにあります。その板片が研究所閉鎖の際に所在不明になっていたのですが、この度の要請でやはり保存されていたことがわかりました。

その墨書きの内容は驚くべきものでした！

起工：明治36年3月6日 竣成：同36年3月31日(工事期間は25日！ 竣工ではなく竣成！) 建築費：5325円 契約担任：第一師団経理部長陸軍一等監督 横幕直好 設計者：陸軍技手 浅川正中 工事監督主任者：陸軍技手 平井菊治 請負人：千葉県東葛飾郡市川町 3259番地 林與五郎 同大工棟梁：同郡高木村千駄堀 1231番地 安藤兼吉 同肝煎同郡松戸町 1872番地 伊藤富之助

この赤レンガ建造物はフランス積みという形式で建造されています。陸軍では、明治14～20年ごろにフランス積みからイギリス積みに変遷したと思われます。ところが、証拠と思しき板片には明治37年竣工と記載されていたということで、陸軍のレンガ構造物建築時期と矛盾をきたしていました。

今回の確認で、板辺はレンガ建物の竣工に関する記録ではなく、建造後のどこかの修理工事、おそらく屋根の葺き替え工事の際の棟札であったのではないのでしょうか？ とすればおそらく、当該建築物は教導団創立当時の明治10年代の建築であったとも推定され、フランス積みであることと一致します。ますます貴重な建造物であるといえそうです。

● 面白いですね。25 日間では絶対にあの煉瓦は積めません。だから屋根の工事だったのでしょう。
築後 20 年で屋根の補修はありそうな話です。とすれば明治 15～20 年ごろの建築ということになります。

なお、墨書に登場する大工棟梁の安藤謙吉さんは松戸の人。昭和 18 年に馬橋、小金、高木村が松戸市に合併したとあります。松戸運動公園と 21 世紀公園の間に千駄堀という地名があり、松戸西病院の東方、常盤平駅の北に高木小学校があるのでここに住んでいた大工さんでまちがいないでしょう。(高木彬夫氏メモ)

● 工事の契約担当者は「第 1 師団経理部長」となっていますから、この板片は明治 36 年当時の工事の内容を記したものでしょうね。陸軍では、工事の管轄が明治 32 年に「陸軍省経理局 3 課第 1 師団監督部」であったものが、明治 36 年には「陸軍省経理局建築課第 1 師団経理部」に変わっています。これから明治 36 年時に行われた工事を報告している可能性が高くなります。

また工事の内容に関する記述が、「起工…竣成…設計者…工事監督者…請負人…大工棟梁…」となっています。これは仮の補修工事ではなく、本工事などで記述される内容と考えて良いと思われます。金額については 5325 円(明治 37 年で米俵 1 俵が 5.8 円)と記述がありますから、現在の金額に換算すると 1400 万円程度になります。建物は倉庫ですから、十分な金額であるように思われます。

この建物はフランス積みであり、言われている竣工年代(明治 37 年)がもっと遡る可能性がない訳ではありません。確かに明治 10 年～20 年にかけてはフランス積みに比べてイギリス積みが目立って増えていきます。フランス積みはイギリス積みに比べると構造的に弱いため、大規模工事では多くがイギリス積みで採用される結果になったと考えられますが、明治 20 年以降、フランス積みがまったく無くなった訳ではありません。

明治 43 年竣工の旧陸軍第 13 師団長官舎の基礎にはフランス積みが使われていたという報告があります。川口市では明治 30 年代の旧宿場町煉瓦塀、小さな発電所にフランス積みが使われています。

ただ煉瓦の積み方より、私が見た範囲では、目地に柔らかい漆喰を混ぜたセメントが使われていたように思う(あくまで短い時間による目視での印象です!!)ことを、重視したいと思います。ポルトランド・セメントの乾式製造法は、明治 20 年の小野田セメント会社当たりから本格的に始まりますから、漆喰目地を使った煉瓦造建物ということになれば、もう少し竣工年代が遡る可能性があります。いずれにしても現地での見学会のほかに、実測図を作るなど、本格的な建物調査が望まれると思います。(藤谷陽悦氏メモ)

お知らせ
2

東京都北区中央図書館見学会を実施します！

2010 年 5 月 20 日(木) 13:00 現地集合。参加費カンパ制。

- 13:00 現地集合 北区中央図書館見学と説明(図書館司書と北区教育委員会文化財係の方の説明)
15:00～ 徒歩で周辺(自衛隊?)を見ながら東京家政大学へ
15:30 東京家政大学赤レンガ教室棟見学と説明(総務部管財課と板橋区教育委員会文化財係の方の説明)
17:30 終了

交通案内 JR・東京メトロ南北線王子駅北口下車 コミュニティバス利用か徒歩 15 分

北区中央図書館には、1919 年(大正 8 年)建造の赤レンガ倉庫(旧陸上自衛隊十条駐屯地 275 号棟)が保存され、今も図書館施設の一部として有効利用されています。北区の近代産業の歴史や当時の建築技術を知ることができます。

お知らせ
3

市川市行政との話し合い 日時未定

今後は、議会への陳情などを視野に、行政への働きかけを強めていかなばなりません。
そこでまず、4 月～5 月に、市川市の各関係課との意見交換会を予定しています。行政側の現状を確認するとともに、市民側の思いを伝えて、市民と行政との協働プラン構築に向けた話し合いの切っ掛けにしたいものです。詳細は追ってお知らせします。ご期待ください。